

母親自身の表現体験を大切にする子育てサークルの可能性

下川 涼子

Possibilities of child-rearing circle that to see the mother's own expression experience as important.

Ryoko SHIMOKAWA

論文要旨

本稿では、母親達による自主的な子育てサークルにおいて、未就園児とその母親を対象にした表現活動のプログラム内容とその効果について検証し、サークルの意義や可能性を明らかにすることである。全9回の活動終了後の参加者アンケートから、子育てサークルでの体験が未就園児の子ども達にとって入園前の気持ちや人間関係をつくる準備になったこと、また子どもだけでなく母親も主体となって参加する「大人の表現活動体験」プログラムを取り入れたことで、母親達の表現活動への理解や受け止め方が深まった様子が伺えた。こうした結果に基づいて、子育てサークルの在り方や可能性、また今後の活動の取り組みについての課題を考察する。

キーワード：子育てサークル、親子、表現

I. 問題意識と目的

子育て親子が交流する場として「サロン」や「ひろば」と呼ばれる親子の居場所を提供する支援がある。これらは行政が行う支援センターなどの他に、NPOや地域のボランティア、母親達の自主サークルなど多岐に渡る。「サロン」や「ひろば」は、こうした環境の中で親自身が学び、つながり、解放され、見通しを持つことができる場として機能しているといえる¹⁾。さまざまな取り組みがある中、自身が子育て中の母親である著者と周りの母親達とで子育てサークルを立ち上げた。このサークルの目的は、未就園児とその母親を対象にしたリトミックや造形、鑑賞活動といった親子参加型の創造的表現活動のプログラム、世代交流の場の提供である。そしてこれらは未就園児が幼稚園に入る前的心や体の準備、また人間関係づくりの基礎を培う

役割を果たすのではないか。また子どもだけでなく母親が主体となって表現活動体験をすることで、自分自身が表現を楽しみ解放やリフレッシュに繋がること、表現活動の受け止め方や子どもの表現への関わりや理解がより深まるのではないかと考えられる。1年間を通して全9回行った子育てサークルでの取組みを振り返り、よりよい子育て支援活動を考えたい。

II. 研究の方法

令和元年度に開始した子育てサークルの活動の意義と可能性を省察するための手がかりとして、参加した母親の事後アンケート調査を実施する。実施した活動記録・写真記録、ふり振り返り記述（サークル活動に参加してよかったこと、活動への要望、大人の表現活動体験はどうだったか、体験して変化があったか）を主に扱う。

Ⅲ. サークルの概要

1. 倫理的手続き

本研究に際しては、参加者に活動記録を取ることを伝え、写真撮影の了承をいただいた。また、活動終了の際に、本論文における活動内容の箇所を抜粋して配布し写真掲載の確認をしてもらい、合わせて活動記録や成果物、コメントや記述を活用させてもらう旨、再度確認し、了解を得ている。

2. 親子サークルるんるんの概要

本稿の研究対象は、親子サークルるんるん(以下L)である。ここではLサークルの活動場所や活動内容を整理する。Lサークルは、東京都杉並区を拠点とする子育てサークルである。活動は月に1回、集合住宅の一角にある集会室で行われている。活動の対象は0歳児から未就園児までの子どもとその保護者である。このサークルの参加者は同じ幼稚園に通う世帯同士であり、上の兄弟児が幼稚園に通う時間帯に下の兄弟児対象に活動を行っている。15組の親子に毎月毎に活動日時・内容の告知をし、事前に参加の有無をメールやLINE、口頭で参加の受付をした。入会金ではなく、参加費は親子1組1回300円を当日受付時に支払う。この参加費は活動内の交流タイムで保護者向けのお茶菓子代とした。アレルギー予防の観点から子どもは各自おやつや軽食を持参してもらう。

Lサークルの発端は筆者の子どもが通う幼稚園の未就園児親子向けに子育てサークルを始めたい旨を親しい保護者らに話したところ、数名の母親が手伝いを申し出てくれ、また自身の職務経験を活かす活動案(リトミックや造形)を示してくれた。そこで4人の母親が中心となり、自主サークルとしてスタートするに至った。

3. 2019年度の活動計画

サークルの活動内容は、親子リトミックを6回、他に外部講師による「わらべうたワークショップ」「リトミック&クリスマスコンサ-

ト」「ベビーシアター鑑賞」を単回で行い、全9回実施した。親子リトミックの際には、先に述べたように母親達が主体的に参加できる「大人向け表現活動体験」として15分~20分ほどのプログラムを行った。

●親子リトミック&大人の表現活動体験

リズム表現を中心とした活動。専門分野の学位、また芸術教育経験を有する講師(山本有理さん)が担当し、母親が主体となって参加する「大人の表現活動体験」は筆者が担当した。ベースパートはLサークル立ち上げの母親4名で行った。

●わらべうたワークショップ

ゲスト講師、表現教育研究所の大沢愛さんによる60分のわらべうた体験を行った。

●リトミック&クリスマスコンサート

ゲスト講師NPO法人アートインライフの高橋諒多さんによる40分のリトミック体験、その後高橋さん演奏、親子リトミック講師山本有理さん歌唱でクリスマスソング2曲、オペラ2曲のコンサートを行った。

●ベビーシアター鑑賞

ゲスト講師NPO法人アートインasibinaの下川瑠美さんによるベビーシアター「ふうふうあーん」鑑賞。

4. 活動の流れ

I 受付~リラックス

参加者は最初に受付をし、大人も子どもも名札をつける。講師の声かけで中央に円座になり、活動がスタートする。

II メイン活動

ピアノの演奏に合わせて歩く、走るなどのリズム遊び。近くにいる人とタッチや、歌あそび「バスにのって」等の親子の触れ合い遊びも多く取り入れた。エッグシェイカーや講師持参のリトミック楽器(トライアングルや木琴)に自由に触れ、音を鳴らす楽しさを体験する。他にも縄とびやカラフルなりトミック布を使ったり

表1 サークルの流れ

I	受付・リラックスタイム (10分)	受付・交流タイム・ご挨拶
II	メイン活動 (40分)	リズムあそびや身体表現、自由に楽器に触れたり楽器を使った遊び・季節の歌・造形活動・鑑賞
III	交流広場 (30～40分)	育児情報交換・子ども、保護者同士の交流
IV	大人の表現活動体験 (15分)	保護者を対象とした表現活動ワークショップ (言葉遊びや想像・創作活動)

ズム遊びや、折り紙で蝶を作ったあと歌に合わせて動かす等の造形と表現あそびも行った。また、“観る・聞く・楽しむ”鑑賞活動として、ペープサートを数回行った。

III 交流広場

母親にお茶とお菓子を配り、フロアの自由な場所に座って交流を行った。先に述べたように保護者同士は同じ幼稚園で顔見知りであることから、各所で話が弾む様子が見られた。

IV 大人の表現活動体験

数回にわたり言葉や想像力を使ったあそびから創作活動まで体験してもらった。付添いで来ている母親達が主体的な体験者になるに際し、緊張や不安を取り除き、活動へ抵抗感なく参加しやすいように「頭を使ってリフレッシュしましょう」という声かけを行った。

サークル全体の流れをまとめたものが表1である。

5. 活動方針

1) 目標

表現活動のプログラム展開としてブライアンウェイの「人格の諸相」²⁾を参考に、「集中」「感覚」「想像」「感情」「身体」「言葉」「知性」へアプローチを考えたプログラムを実施する。ブライアンウェイはこの諸相について、総ての年齢層に向けられる、円周上のどの点から始めてもよく、役に立ち、適切であると述べている。ここでの子ども向け活動においても、大人向け表現活動においてもこの諸相の点と内の内容を念頭に各人そしてサークル全体の発達を段階的

に伸ばしていく。

2) 準備

会場に入ってきたときから講師やスタッフによる声かけを行い、場所や人に緊張させない雰囲気作りを心がける。

3) 活動中

表現を楽しむことを大事にする。見られる緊張や不安を感じることをないように、各々のペースに気を配り、一人ではなく全員が一緒になって身体を動かしたり声を発したりする活動を中心に行う³⁾。心地よいリラックスと集中の中、まずは自分自身が行うことに熱中し、徐々に周りの人がやっていることに興味を向けたり、1人ではなく母親と一緒に、次に親子だけでなく他の親子と一緒に、そして全員と繋がっていくようなプログラム展開で進める。講師やスタッフ、保護者は温かく見守り、時には励ます。参加に消極的な子どもがいたら、「見ていいよ、やりたくなったらおいで」など肯定的な声かけを行う。

4) 事後

子どもの様子で良かったところ、成長を感じたところを共有する。保護者の話から子どもがサークルを楽しみにしてくれている様子や、家でもやっていることなどが聞ける。また、次回挑戦できそうなことややってみることに繋がる話題も出る。大人が話す間、子ども達は活動で使用した楽器や布に触ったり、おいかけこ

をしたり遊ぶ様子が見られる。危険がないよう見守りつつ自由に過ごしてもらう。

IV. 2019 年度の活動の概要

1. 実施時期と場所

実施は5月～2月の間（8月を除く）、月1回のペースで行った。会場となる集会室はマンションの地下に位置するが、部屋の奥が天窓になっており、またガラス扉で外に繋がっているため外からの光が入り、圧迫感を感じさせない造りとなっている。中央は親子15組程が自由に動き回れるフローリングになっている。電子ピアノは持ち込んだ。10分前に参加者を案内する。

2. 参加者

参加者は10～15組の親子であった。保護者は母親、子ども2歳児9名、3歳児7名で、毎回参加者の人数に変動があった（表2参照）。

表2 2019年度の活動状況

	活動内容	参加親子(組)
1	リトミック&大人の表現活動体験	13
2	リトミック&大人の表現活動体験	7
3	リトミック&大人の表現活動体験	11
4	わらべうたワークショップ	9
5	リトミック&大人の表現活動体験	10
6	リトミック&大人の表現活動体験	9
7	リトミック&クリスマスコンサート	8
8	ベビーシアター「ふうふうあーん」鑑賞	10
9	リトミック	10

V. 2019 年度の活動の内容

1. 第1回 2019年05月29日（水）

参加者：13組

活動：リトミック⁴⁾ & 大人の表現活動体験

- ①ご挨拶「こんにちは、〇〇ちゃん」：講師がその子の前に座り、「こんにちは、〇〇ちゃん」と歌い、全員で「こんにちは、〇〇ちゃん」

と繰り返す。名前を呼ばれた子は指導者が差し出したタンバリンを（1回もしくは自由に）叩く。このご挨拶は毎回行い、参加者の緊張をほぐし、活動の始まりを意識させる。

- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」

- ③おかあさんとおさんぽ：「おかあさんとおさんぽ」の歌とピアノの演奏に合わせて親子で手を繋ぎ歩く。アップテンポやスローテンポな曲調で変化をつける。向かい合わせになり両手をつなぎスウィングする、抱っこされて歩く、など様々なバリエーションで行った。音楽に合わせていろいろな表現を楽しむ。自分の身体の制御、リズム感、母親との触れ合いの活動。

- ④楽器遊び「なにがでるかな」：円座になり、指導者がトライアングルを鳴らす。参加者は耳を澄ませて音を聞く。一人一人の前に行き、スティックを渡すと各々好きなように音を鳴らす。楽器を変えて、木琴で同じように行う。その後は、自由に楽器に触れる時間を設けた。いろいろな楽器に触れて、音の違いやリズムを感じ取る。

- ⑤季節の歌：声楽科出身である指導者が「こいのぼり」を歌って聴かせた。

- ⑥終わり：「さよならあんころもち」でレッスンの最後を楽しく締めくくる。

大人の表現活動体験⁵⁾

- ①じゃんけんあそび（声を出す、瞬発力）講師が出すじゃんけんの名前をできるだけ早く言う。後出しであいこ・勝ち・負けをすばやく出す。同じ事を近くの人とペアになって行う。間違ってもいい。楽しみながら行うよう声かけをする。

- ②じゃんけんあそび2（瞬発力、即興）ゲー・チョコキ・パーに違う名前をつける。ゲー：じゃがいも、チョコキ：人参、パー：キャベツ。ペアになりお互いが出したじゃんけんの名前を先に言う。つぎにゲーとチョコキが出たときの組み合わせで出来る料理をみんなで考えた。

「グーとチョキ：肉じゃが」といったように決める。ペアになりお互いが出したじゃんけんで出来る料理名を先に言う。

2. 第2回 2019年06月12日(水)

参加者：7組

活動：リトミック&大人の表現活動体験

- ①ご挨拶：「こんにちは、〇〇ちゃん」
- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」
- ③リズム&コントロール：音楽に合わせて部屋の中を歩く、走る、止まる。身体のコントロール、聴く力、集中力、即時反応を養う。応用で、音楽が止まったら親子でタッチ（手、体、頬など）、近くにいるお友達とタッチなど取り入れ、コミュニケーションを深める。
- ④おかあさんとおさんぽ
- ⑤楽器遊び「なにがでるかな」：指導者が大きなマラカスを出し、音を聴かせた。参加者も自由に触って楽しんだ。その後、一人ひとりにエッグシェイカーを配った。
- ⑥リズム遊び歌：「かえるのうた」を歌いながらエッグシェイカーを鳴らす。音楽に合わせて音を鳴らしリズム感を高める。みんなで一緒に演奏する楽しさを味わう。
- ⑦季節の歌：指導者が「あめふりくまのこ」を歌って聴かせた。
- ⑧終わり：「さよならあんころもち」

大人の表現活動体験

- ①1、2、3：ペアになり交互に1、2、3と言う。できるだけスムーズに言えるように行う。1をクラブに変える。2をジャンプに変える。3を回転に変える。
- ②ワード：ペアになり交互に1音ずつ発音し単語をつくる。例えば「あ」「い」「す」など。相手が止まってしまったらジェスチャーで手助けする。あから始めてどの五十音までつくれるかやってみる。レベルアップとして3音から5音にする。集中と言葉の活動。

3. 第3回 2019年07月10日(水)

参加者：11組

活動：リトミック&大人の表現活動体験

- ①ご挨拶：「こんにちは、〇〇ちゃん」(写真1)
- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」
- ③おかあさんとおさんぽ：さまざまなバリエーションで行う。親子で歩く。向かい合わせになり両手を繋いでスウィング。母の膝に座り「ゆーらん」のリズムで揺れる。向かい合わせになり「トントントン」のリズムで手合わせする。
- ④動物カード⁶⁾：「ぞう」「へび」「ひよこ」「ライオン」の絵カードを見せながら動きのイメージをふくらませるよう話しかける。それぞれの動物になってリズム歩き。想像力、表現力、即時反応力を養う。
- ⑤動物電車であそぼう：大縄を使い円になる。子ども達は大縄を持つ。先程の動物カードを用い、指導者が見せるカードの動物になって円で動く。ぞうは「どっしんどっしん」へびは「によろによろ」など。みんなで一緒に表現する楽しさや喜びを体感する。
- ⑥楽器遊び「なにがでるかな」指導者が用意した打楽器の音を楽しみ、自由に触れ合う時間。
- ⑦リズム遊び歌：「ほたるこい」を母親中心に輪唱で歌う。手拍子でリズム感を養う。
- ⑧季節の歌：「あめふりくまのこ」今回はパネルシアターを用意した。指導者の歌と共に鑑



写真1 ご挨拶の様子

賞する。

⑨終わり：「さよならあんころもち」

大人の表現活動体験

- ①BAN：即興手遊び。ウォーミングアップ。ペアになり3パターンのポーズをし、同じポーズになったとき先に「BAN」と撃つマネをする。(写真2)
- ②YES AND：ペアになり「お昼のメニュー」「旅行先」等のテーマで交互に提案していく。そのとき必ず「いいね!」と受け入れる。ポジティブな気持ちを作る活動。逆に相手が言ったことに「いやだ」とNOで返す体験もする。先程と気持ちがどう変わるかシェアしてみる。表現活動における肯定的な受け止めの大切さを共有する。
- ③椅子のエクササイズ：想像力と即興表現。1脚の椅子に人が座っている。その人を立ち去らせるが、直接触れたりせず自然に立たせるにはどんなアプローチがあるかを想像、表現してみる。日常に体験している場面を想像し再現する活動。



写真2 大人の表現活動の様子

4. 第4回 2019年9月25日(水)

参加者：9組

活動：わらべうたの指導者をゲスト講師に招き、お手玉や昔あそびを体験した。

5. 第5回 2019年10月9日(水)

参加者：10組

活動：リトミック&大人の表現活動体験

- ①ご挨拶：「こんにちは、〇〇ちゃん」
- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」
- ③おにぎりつくろう：カラフルなリトミックスクーフを1枚ずつ配る。「おにぎりつくろう」の歌に合わせて、スクーフをにぎる。今度は親子で一緒ににぎる。「アリスのおにぎり。キュキュキュ」のお歌で小さいおにぎり、今度は大きいおにぎりなど遊んでみる。エッグシェイカーも配り、ふりかけをシャカシャカかける動きやリズム遊びも行った。
- ④おかあさんとおさんぽ：エッグシェイカーを回収し、先程のスクーフおにぎりを持ってリズム歩き。親子で手を繋いで歩く。音が止まったら近くの人と「こんにちは」のリズムで挨拶する。
- ⑤楽器遊び「なにがでるかな」：指導者が用意した打楽器の音を楽しみ、自由に触れ合う時間。
- ⑥リズム遊び歌：「おおきなたいこ」歌に合わせて自分の身体で大きさを表現する。2回目は親子で手を繋ぎ一緒に表現を楽しむ。
- ⑦季節の歌：「まっかな秋」
- ⑧終わり：「さよならあんころもち」

大人の表現活動体験

- ①棒のエクササイズ：想像力と即興表現。1本の棒を使って、物を表現してみる。次にどんな状況にある人であるか表現する。全体でいろいろ表現したあと、4人グループになり、4人で一つのシチュエーションを考え、役割を決めて表現する。もう一つのグループが観客になりどんな場面かあてる。言葉や動きの想像と表現、また他者との表現を楽しむ。「野球の試合」「タピオカ店と客」というシーンができた。

6. 第6回 2019年11月20日(水)

参加者：9組

活動：リトミック&大人の表現活動体験

- ①ご挨拶：「こんにちは、〇〇ちゃん」
- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」
- ③おかあさんとおさんぽ：基本の動きや挨拶以外にも、うしろ歩き、片足歩きなど。
- ④リズム遊び歌：「やきいもやけたかな」歌とリズム手遊びを楽しむ。その後、全身体でやきいもになって、ゴロゴロ床を転がって遊ぶ。鮮やかな虹色の大判布を広げて、「やきいもの上に虹がかかったよ」と上下させる。
- ⑤ペープサート鑑賞：絵本「さつまのおいも」⁷⁾を行った。参加型になるよう呼びかけを入れたり、一緒に歌える「バスごっこ」を取り入れた。
- ⑥終わり：用意したやきいもを一緒に食べた。

大人の表現活動体験

- ①棒のエクササイズ：前回に引き続きグループで創作。「工事現場」などができた。
今年度の大人の表現活動体験はこの日で終了。

7. 第7回 2019年12月11日(水)

参加者：8組

活動：リトミック&クリスマスコンサート

今回はリトミック講師をされている高橋諒多さんにゲスト講師としてリトミックを行ってもらった。

- ①遊び歌：「お母さんのおひざ」歌に合わせて親子で触れ合う。
- ②リズムあそび：レガートとスタッカートを聴きわけて、親子で手合わせする。
- ③おかあさんとおさんぽ：テンポを感じながら歩く。
- ④絵本：「クリスマスの絵本」⁸⁾読みきかせ
- ⑤身体表現・想像活動：「クリスマスツリーを作ろう」身体で木を表現、スカーフで飾って楽しむ。「雪が降ってきた」白い大きなスカー

フの下をソリのイメージで走る。

- ⑥音楽：「サンタからのプレゼント」音楽に合わせてエッグシェイカーを鳴らす。

後半は普段リトミックを行っている山本有理さんが歌手、高橋さん演奏のミニクリスマスコンサートを開催。親子で一緒に歌えるクリスマスソングと、じっくり聴く本格オペラで楽しませてくれた。

【曲目】

- ①ジングルベル②Quando me'n vò「私が街をあるけば」③O mio babbino caro 《da Gianni Schicchi》「お父様にお願い」④あわてんぼうのサンタクロース

8. 第8回 2020年1月30日(木)

参加者：10組

活動：ベビーシアター「ふうふうあーん」鑑賞

やさしい歌やムーブメントを主体に、ことばとやわらかい音の楽器、羊毛素材の舞台芸術を用いた親子がはじめて出会う舞台鑑賞をモチーフにされているアートインasibinaの下川瑠美さんが行うベビーシアター鑑賞。鑑賞後は物語のようにスープをみんなで食べて交流し、舞台装置や小道具を自由に触って楽しんだ。

9. 第9回 2020年2月19日(水)

参加者：10組

活動：リトミック

- ①ご挨拶：「こんにちは、〇〇ちゃん」
- ②遊び歌：「とんとんひげじいさん」
- ③おかあさんとおさんぽ：基本の動きや挨拶以外にも、うしろ歩き、片足歩きなど。
- ④リズム遊び歌：「キャベツのなかから」緑のリトミック布でキャベツを表現。歌とリズム手遊びを楽しむ(写真3)。歌の終わりで折り紙のちょうちょを取り出す。
- ⑤工作タイム：好きな色の折り紙でちょうちょを折る。ちょうちょを自由に動かす。母親に



写真3 手遊びの様子



写真4 ペープサート後の記念撮影

カラフルなリトミック布を渡しお花を作ってもらおう。一緒に「ちょうちょ」の歌を歌いながら、お花に止まったり母親の肩や頭、腕や背中に止まるよう指示を出す。次に親子で向かい合わせになり、ピアノが高音の時は互いの頭、低音の時は互いのおしりに止まる。いろいろな表現を楽しむ。高低の音に耳を傾けて反応する。

- ⑥ちょうちょでおさんぽ：ちょうちょを動かしながら部屋の中を歩いたり、ケンケンしたりする。十分に動いた後、子ども達を中央に集めて座らせて虹色の大き判布を広げる。「ちょうちょの上に虹がかかった」と上下して楽しむ。
- ⑦ペープサート鑑賞：オリジナル脚本による「るんるんちゃんの冒険」を行った。参加型になるよう呼びかけを入れたり、一緒に歌える「手をたたきましょう」「おべんとうのうた」を取り入れた。
- ⑧終わり：物語にでてくるオニのツノとパンツを配って、記念撮影をした(写真4)。

VI. 結果

全9回の活動終了後、参加した母親へ事後アンケートを行った。リトミック活動やわらべうたWSを通し感じたことについて、「子どもが歌や手遊びを覚えて家で歌っていた。」「他の子ども達との体験活動は幼稚園の入園前に親子で

集団活動を体験する機会となりとても有意義だった」「リトミックをベースにときどきちょっと違うプログラムが入るといのがちょうどよかったです。子どもは“いつもの活動”というのも安心するし、ちょっとちがうものにも食いついていました。」などの回答を得た。大人向け表現活動については、「頭が活性化されている感じがして楽しい。たくさんのお母さん方とコミュニケーションとれるのも嬉しい。」「とても楽しかったので帰宅後小学生の子どもともやりました。大人の表現活動でしたことは準備もいらないし場所も選ばないので、簡単にできて良かったです。自然とやっている内に笑顔になりました。」「みんなのアイデアが聞けるのがとても面白かった!」といった感想などをいただいた。

VII. 考察

1. サークルの意義と可能性

1) 活動内容

リトミック活動では、毎回決まったご挨拶やお歌を行い、子ども達がこの空間と活動に慣れ親しむように取り組んだことが功を奏してか、子ども達は来たときは緊張気味の様子が見られても、活動が始まると流れが分かるので、安心して参加できていたようであった。ゲスト講師を招いた回では舞台鑑賞や演奏会などの創造的な表現活動を提供できたからか、親子ともにと

でも刺激になったことがアンケートから読み取れた。また、母親も主体となって参加できる「大人の表現活動体験」プログラムは、母親の心身のリラックスや発散に繋がり、また保護者同士の相互コミュニケーションを深めるよい働きかけになったことが伺える。この体験で行ったことを、自宅にて小学生の子どもとやってみた等の感想から、親自身が体験することで子どもが表現活動に触れる機会が広がる可能性も見いだせた。このことから母親に子どもの付添いで、という意識や関わり方でなく、自らも参加者である意識を持ってもらえるような子育てサークルの在り方は発展性があり、重要であると考えられる。

2) 活動方針

毎月活動前後にはスタッフ間で申し合わせをして、プログラム内容や環境設定に配慮できたこともあり、スタッフで行ったペープサートも楽しんでもらえたと考える。楽器づくりや物作りといった造形活動への要望の声もあったので、更に様々な表現活動のプログラムの可能性を模索したい。

2. まとめ

令和元年度のLサークル活動は終了したが、また新年度以降もサークル活動を通し未就園児とその母親の成長と交流の場を提供し、これからも子育て支援活動の意義というものを考え続けていきたい。

【引用・参考文献】

- (1) 大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編 (2014) 『よくわかる子育て支援・家庭支援論』 ミネルヴァ書房.64-67
- (2) ブライアンウェイ著／岡田陽・高橋美智訳 (1977) 『ドラマによる表現教育』 玉川大学出版部.22-25
- (3) ジュラルディンBシックス著／岡田陽・北原亮子訳 (1978) 『子供のための劇教育』

玉川大学出版部

- (4) リトミック研究センター編 (2012) 『こどものためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～』 特定非営利活動法人リトミック研究センター
- (5) 太宰久夫 (2004) 『じぶんたんけんたい (全6巻)』 ポプラ社
- (6) 岩井光弘 (2012) 『リトミックってなあに』 特定非営利活動法人リトミック研究センター 35-42
- (7) 中川ひろたか (1995) 『さつまのおいも』 童心社
- (8) メアリー・チャルマーズ (2009) 『エリーちゃんのクリスマス』 福音館書店